基調報告　戦争遺跡の保存と活用について現状と課題
−第 23 回全国シンポ熊本大会−

戦争遺跡保存全国ネットワーク
共同代表　出原恵三

はじめに

アジア・太平洋戦争が終結して 74 年、戦争体験者は愈々減少し戦争の語り部、平和ガイドも戦争体験世代から戦後世代へと移行し、戦争の実相を伝える手段としての戦争遺跡の果たす役割はますます大きくなっている。

戦争遺跡保存全国ネットワーク（以下全国ネット）は、「日本近代史における戦争の実相を調査研究して記録し、戦争遺跡を史跡、文化財として保存し、もって平和の実現に寄与しようとする団体・個人の連絡・協議を推進することを目的」として 1997 年に長野県松代で結成され、以後、戦争遺跡の保存を願う多くの市民、会員に支えられて継続・発展し今回で第 23 回の全国大会を迎えるに至った。この間、文字史料からは触れられることのなかった地域と戦争の関わりについて新たな知見を提供し、保存活動を通して戦争遺跡に平和を願う砦として第二の生命を宿してきた。

行政サイドにおいても 1995 年の文化財保護法の指定基準改定以後、自治体間での温度差はありながらも戦争遺跡への関心は確実に広がりつつあり、保存・整備までには至らなくても説明板の設置や発掘調査の件数の増加などに前向きな姿勢を看取することができる。沖縄県や愛知県、滋賀県、福岡県、あるいは宮古島市や瀬戸内町などでは精密な分布調査が実施されるなど積極的な取り組みも見られる。全国ネット設立以後、四半世紀近くが経過し戦争遺跡のもつ重要性の認識は市民社会の中に確実に定着しつつあるといえよう。

しかしながらこのような戦争遺跡への関心の広がりは、戦争の実相や悲惨さを追求するという本来の保存運動の発展、方向性とは必ずしも合致していない。昨年も触れたように、戦争を一面的に捉えた軍事博物館的な資料館の登場や戦争遺跡の解説や展示を巡って事実の隠蔽や歴史的背景の欠如など憂慮すべき事例も見られる。昨年は明治 150 年で「明治栄光論」が官民あげて唱えられたが、その延長上で「神武東遷」を日本遺産に認定しようとするなどかつての「紀元二六〇〇年奉祝」事業を思わせるような現象さえ見られる。戦争遺跡が再び戦争肯定や美化に利用されかねない状況にあることも認識しておかなければならない。行政の積極的な動きの中で、戦争遺跡と市民との接点に立つ自治体職員の果たすべき役割も重要である。

戦争遺跡の存在は市民社会に定着しているが、一方で問題点も顕在化しつつある。1970 年代本土復帰後の沖縄で始まった戦争遺跡保存運動の原点に立ち返り、何のために戦争遺跡を保存するのかその目的を再確認することが今強く求められているように思われる。熊本大会において各分科会の発表などを通して議論を深めて頂きたい。

1．文化財行政と戦争遺跡の保存

⑴分布調査と「包蔵地」

日本列島には旧石器時代から近代まで約46万件の遺跡が「周知の埋蔵文化財包蔵地」（周知の遺跡）として各自治体の遺跡台帳に記載されており、開発行為などによって遺跡の現状変更が行なわれる場合は発掘調査の対象となり記録保存が行われる。その数は年間、約9,000件に及ぶ。しかし

全国で約5万件と言われている戦争遺跡の中で、遺跡台帳に記載されている例は極めて少なく、皆無の自治体も多い。このような中で昨年11月、鹿児島県教育委員会は瀬戸内町の戦争遺跡19件を「包蔵地」として登録した。奄美大島の西古見砲台跡や手安弾薬本庫跡、久慈の佐世保海軍軍需部大島支庫跡などで、瀬戸内町の担当者は「国の文化財指定に向けた一歩としたい」としている。鹿児島県では知覧町の４件と合わせて23件が「包蔵地」となっている。これは沖縄県の1077件に次ぐものである。

分布調査では福岡県が17年度から国庫補助を得て３年計画で悉皆調査を実施しているが、本年が最終年度であり来年3月に刊行される報告書が待ちどうしい。

戦争遺跡が保護の対象になったとは言っても現在の埋蔵文化財保護行政では、明治以降の近代の遺跡については「地域において特に重要なもの」（1998年文化庁通知）とされており、遺跡の位置づけが曖昧である。多くの戦争遺跡は開発工事などに対して全く無防備で、消滅の危機に瀕しているのが現状であり、戦争遺跡の保存のためには分布調査による台帳作りと「包蔵地」としての登録が喫緊の課題である。戦争遺跡が前近代の遺跡と同様に扱われれば調査件数は飛躍的に増加しよう。またこのこととも関連して2004年度に刊行予定であった文化庁の『近代遺跡調査報告書⑼政治・軍事』が未だに刊行されていないことは問題である。遅延の理由としては沖縄戦についての記述内容に起因するとのことであるが、早急な刊行を切望する。

2. 戦争遺跡の調査

⑴被爆遺構確認調査　　調査主体　広島市、　調査期間2019.5～７月、面積25㎡

広島平和記念公園内で「旧中島地区被曝遺構確認調査」が今年5月から7月にかけて実施された。原爆投下されるまでは繁華街であった中島地区（現中区中島町）の地下に眠る被曝遺構の保存と展示を目的とするものある。平和公園内での調査は資料館本館の耐震工事に伴う緊急調査が2015年～17年に行われているが、それに次ぐ調査である。狭い範囲の調査であったが、地表下60～90㎝の地点で被熱赤変した焼土や炭化材の広がる被爆面が確認された。炭化材や瓦片の出土状況から木造家屋が炎上、倒壊し壁土が焼土化した状況、炭化した畳や床板と考えられるものなど被爆直前の生活を具体的に復元できる貴重な資料が得られるとともに灼熱の地獄と化した当時の状況を生々しく伝えている。

⑵西古見砲台跡　　調査主体　鹿児島県瀬戸内町　　調査期間 2019.1 月

2017 年度から取り組む町内戦争遺跡確認調査の一環で国指定を目指している。この砲台は大正期に旧陸軍が構築した奄美大島要塞の中核を成すものの一つで、唯一 28 ㎝榴弾砲が置かれていた。大正期築造の砲台跡発掘は全国的にも初めてである。砲座の直径５．５ｍ、明治期のレンガ作りから鉄筋コンクリート作りへの工法の変化、弾薬庫から弾薬を運ぶ輸送道路、給水施設も確認。1 月 27 日には見学会が開催された。

⑶滝ノ上火薬製造所跡　　調査主体　鹿児島県立埋蔵文化財センター　2018 年 11 月

同製造所跡は文政年間（1818～30 年）に構築されたものであるが、1872 年に陸軍管轄となり 1877 年 1 月明治政府が火薬や武器を搬出し西南戦争の導火線となった。高さ６ｍ、延長 200ｍに及ぶ石垣や幅 1.2ｍの排水路、溶結凝灰岩で作られた導水路などを確認している。

⑷静岡市日本平で横穴壕調査　　静岡平和資料センター調査チーム

2019年1月　戦時中に壕掘りをしたという情報をもとに調査したところ「本土決戦」準備の横穴27基を確認した。多くは幅２m、高さ２～2.5m。来年８月最終報告の予定である。

この他、奈良県天理市でヒエ塚古墳調査時に旧海軍柳本飛行場関連遺構を検出、佐賀市では三重津海軍所跡の発掘調査が行われドッグ（船渠）壁の一部や「洋式船舶用ロープ」が出土している。

3.　戦争遺跡と学会の動向

⑴第5回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会　2018.11.17 筑紫野市

①「VT信管付き260ポンド破砕爆弾と6月8日の鹿屋空襲」　工藤 洋三

②「1945年3月28日～29日の艦載機空襲について」織田祐輔

③「西鉄筑紫野駅銃撃事件の調査」草場啓一

④「利用か？解体か？岐路に立つ“戦争遺跡”大牟田市庁舎本館」藤木雄二

⑤「下関要塞」前園廣幸

⑥「山家地下壕」相戸　力

⑦「玉名飛行場・大型格納庫の基礎遺構調査」蜚父雅文

⑧「福岡県戦争遺跡悉皆調査の概要」小川泰樹

⑨「建軍飛行場と有蓋木製覆屋掩体壕」高谷和生

⑩「大牟田の空襲を記録する会の活動報告」中嶋光秋

⑵ 琉球沖縄歴史学会　第1回例会「戦争遺跡が語るもの」　2018.11.23　県立芸術大学

①「沖縄県における戦争遺跡調査成果の普及−文化財調査担当者による実践例から−」瀬戸哲也

②「沖縄戦研究における戦争遺跡について」吉川由紀

③「南風原町における戦争遺跡と平和学習利用」平良次子

④「戦争遺跡を科学する−USSエモンズと特攻に関する調査研究—」片桐千亜希

米駆逐艦エモンズは1945年4月6日日本軍特攻機５機の体当たり攻撃を受け航行不能に陥り翌日米軍により沈められた。沖縄本島北部の水深40mに横たわるエモンズを2000年に発見、九州大学浅海底フロンテイア研究センターにより2014年から研究が進められ超音波と水中写真を組み合わせ測量、詳細な海底図とともに船体の3次元画像作成。すでに世界水中文化遺産会議（IKUWA6）などで発表。「本遺跡は、エモンズと特攻をとりまく「海の沖縄戦」の一場面が保存された沈没船遺跡として、学術的に評価することが可能となろう。（中略）海の沖縄戦を物語る平和学習の教材として重要な役割を担う」（片桐）

（2019.1.12 九州大学「エモンズ」の保存、活用を考えるシンポジウム）

⑶九州考古学会総会　2018.11.24

「北九州市における近代遺構について−明治時代を中心に-」安部和城

⑷九州古文化研究会　例会　2019.2.10　北九州市考古資料館

①「福岡平野における本土決戦準備-歩兵第132連隊大隈拠点について−」　池田拓

②「下関市内の戦争遺跡-近代、幕末から明治前期における関門海峡を主眼とした防衛施設の築城−」中原周一

③「宇佐海軍航空隊の建設−排水施設の検討」弘中正芳

④「歩兵第14連隊弾薬庫跡の検討-基礎構造を中心として−」安部和城

⑸戦争遺跡保存ネットワーク四国第9回シンポジウム　2019年6月1日観音寺市民会館

①「旧陸軍歩兵第44連隊弾薬庫の保存」出原恵三
②「愛媛における防空監視哨の遺構と遺物２」多田　仁
③「香川の防空監視哨」直井敏彦

4.話題にのぼった戦争遺跡（新聞報道を中心に）

『文化財発掘出土情報』（KKジャパン通信情報センター18年８月～19年５月）を中心に発掘調査以外の動向について紹介したい。

⑴新発見の戦争遺跡

①「呉鎮守府戦闘指揮所」（広島県呉市　2019年５月）旧海軍呉鎮守府には大規模な地下壕の存在することが知られていたが、今回、呉高専の調査チームが「引渡目録」をもとに調査し新たに確認した。大半が埋まっているが今後発掘調査を行う予定とのこと。

②「島根県庁防空壕」（島根県松江市　2019年６月）松江城で石垣修復工事中に地下坑道を発見、戦争末期に掘られた県庁の防空壕である。幅2.7m、長さ7.5mと８mの二本の壕が奥でコ字状に繋がり連結、連結部（奥室）は幅4.5m、延長28mを測る。松江市は９月中に測量などの記録調査を行なった後、石垣保全のため埋めもどす。

③沈没艦船

・戦時徴用船「大洋丸」（14,000t）、屋久島西方250kmの東シナ海で発見、18年９月５日公開。
　1942年５月米潜水艦の雷撃により沈没、軍・民人817人死亡。
・「戦艦比叡」米調査チームが19年２月５日までにソロモン諸島海底985mで発見。
　1942年11月第３次ソロモン沖海戦で沈没。

⑵戦争遺跡の被害

①大久野島（広島県竹原市）　旧陸軍毒ガス工場関連の火薬庫跡が西日本豪雨で損壊。レンガ作りの火薬庫は明治期の芸予要塞時代に砲台の弾薬を保管、毒ガス工場ができてからは製品の貯蔵庫、朝鮮戦争では米軍が火薬庫として使用。19年８月現在、被害を受けたままの状態、立ち入り禁止、復旧修復の予定なし。（環境省広島事務所）

②旧真田山陸軍墓地（大阪市天王寺区）９月の台風21号で被害、倒木や墓碑約50が倒壊。1871年国内初の陸軍埋葬地、西南戦争～アジア・太平洋戦争までの戦死者が眠る。墓石5100基、国内最大規模を有する。国が所有、大阪市が管理者となっているが責任の所在が曖昧である。10月にボランティア400人が修復作業。10月31日吉村市長現地視察、「国を守るために命を落とした先人を敬い、平和を誓う墓地にしたい」として安倍首相に国立墓地として再整備するよう要望書を提出。参道の舗装、電灯整備などを来年度予算に盛り込む。日常の管理には公益財団法人「真田山陸軍墓地維持会」が当たるが、墓石の剥離、風化など劣化が進行、ボランティアでは維持管理に限界がある。全国に80箇所ある陸軍墓地は同様の問題を抱えている。「福岡陸軍墓地」では2005年３月の福岡西方沖地震で骨壷が散乱するなどの被害が出て遺族などからの寄付金で修復している。3500基が並ぶ広島比治山の墓地でも劣化が進行。陸軍墓地は戦争を考える上で重要な遺跡であり、次世代にどう継承していくべきか大きな課題である。

5. 戦争遺跡　指定・登録文化財

⑴戦争遺跡　指定・登録文化財一覧

2019年７月末　296件

●国指定文化財 39 件、◎県指定 18 件、○市区町村指定 132 件、▲国登録文化財 89 件、△市区町村登録文化財 12、◇道遺産・市民文化資産・歴史資料等 6 件

北海道（42 件）

札幌市琴似屯田兵村兵屋跡●、同新琴似屯田兵中隊本部○、同西岡水源池取水塔▲、同武四郎邸◎、旭川市旧旭川偕行社●、同旧陸軍第 7 師団騎兵第 7 連隊覆馬場▲、同永山屯田兵屋○、同旭川兵村中隊記録及び屯田物語原画綴り○、同第 7 師団関係記○、同旭川兵村中隊記録（追加）○、同旧陸軍第 7 師団北鎮兵事記念館▲、江別市野幌屯田兵第２中隊本部◎、同江別屯田兵第３大隊本部火薬庫○、滝川市滝川屯田兵屋○、同滝川屯田兵第２大隊第３中隊文書◎、深川市屯田兵屋○、同屯田兵歩兵第 1 大隊本部跡○、同屯田兵監的壕◎、美唄市美唄屯田兵屋◎、同美唄屯田騎兵火薬庫○、根室市和田屯田兵碑○、同和田屯田兵の被服庫◎、厚岸町太田屯田兵屋◎、標津町川北海軍航空基地（掩体・戦闘指揮所）○、室蘭市輪西屯田兵火薬庫○、同輪西屯田兵記念碑○、同輪西屯田兵関係資料（軍服印鑑）○、同青い目の人形○、士別市士別屯田兵屋○、北見市屯田兵屋○、同旧野付牛屯田第４大隊中隊本部被服糧抹庫○、同ピーボディ・マルチニー銃○、同屯田兵人形（75 体）○、稚内市大岬旧海軍望楼○、同旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所○同旧陸軍砲台指揮所○、剣淵町剣淵屯田兵屋○、同元屯田兵射的場○、美瑛町陸軍演習場廠舎門柱○、富良野市東中尋常高等小学校御真影奉置所○、函館市函館要塞と砲台◇、別海町旧柏野尋常小学校奉安殿○

東北（12 件）

青森市幸畑陸軍墓地○、同歩兵５連隊第２大隊遭難記念碑○、むつ市旧大湊要港部乙第十号・第十一号官舎○、同旧大湊水源地水道施設●、弘前市旧弘前偕行社●、同旧第８師団長官舎▲、仙台市第 2 師団歩兵第４連隊兵舎○、福島県西郷村旧軍馬補充部白川支部事務所○、岩手県一関市渋民観音寺の梵鐘○、同金ヶ崎町旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎第一棟▲、同金ヶ崎町旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎第二棟▲、同金ヶ崎町旧陸軍省軍馬補充部六原支部官舎第三棟▲

関東（63 件）

茨城県阿見町霞ヶ浦海軍航空隊有蓋掩体壕○、同航空隊国旗掲揚塔○、同航空隊方位盤○、同航空隊士官宿舎階段親柱○、茨城県笠間市筑波海軍航空隊司令部庁舎○、栃木県宇都宮市旧陸軍第 66 連隊倉庫▲、同那須塩原市乃木希典那須野旧宅○、群馬県高崎市元ロシア人兵士墓地○、同渋川市赤城護国神社社殿○、同みどり市防空監視哨跡○、同長野原市防空監視哨跡○、同玉村町玉村八幡宮末社国魂神社▲、埼玉県桶川市旧熊谷飛行学校桶川分教場建物（員数５）○、同所沢市木村・徳田両中尉墜落地○、同航空発祥の地○、同深谷市旧東京第２陸軍造幣廠深谷製造所給水塔▲、千葉県千葉市旧鉄道聯隊材料廠煉瓦建築◎、同市川市中村家住宅主屋他（鉄筋コンクリート防空壕）▲、同習志野市旧鉄道第 2 聯隊表門▲、同旧陸軍演習場内圍壁▲、同館山市館山海軍航空隊赤山地下壕○、同南房総市大房岬要塞群（弾薬庫 2 棟・砲台跡・観測所、砲台跡 2 基、掩灯所、探照灯、格納庫、発電所、火薬庫、射的場、魚雷艇発進所）12 件○、同いすみ市特攻機「桜花四三乙型」行川基地跡○、同松戸市旧陸軍工兵学校歩哨哨舎○、同旧陸軍工兵学校正門門柱○、千葉県山武氏青い目の人形○、東京都千代田区近衛師団司令部庁舎●、同板橋区圧磨機圧輪記念碑○、同板橋区旧陸軍板橋火薬製造所●、同豊島区鏑木久一旧軍事郵便文書△、同片野歌子家旧蔵配給切符・通帳類文書△、同江東区竹橋事件処刑場○、同越中島練兵場跡○、同明治校碑○、同南砂戦災殉難者慰霊六地蔵△、同東大和市旧日立航空機変電所○、同八王子市空襲記録写真原板○、同東久留米市武

蔵野鉄道引き込み線跡○、同北多摩陸軍通信所跡○、同武蔵村山市東京陸軍少年飛行兵学校跡地○、同府中市陸軍調布飛行場白糸台掩体壕○、同東村山市陸軍少年通信兵学校跡地○、同小金井市陸軍技術研究所境界石杭△、同福生市福生第一国民学校防空日誌（2点）△、神奈川県横須賀市東京湾第３海堡構造物（兵舎など４件）◎、同上下水道局走水水源地煉瓦造貯水池▲、同上下水道局水源地鉄筋コンクリート造浄水池▲、同上下水道局逸見浄水場ベンチュリーメーター室▲、同上下水道局逸見浄水場配水池東入口▲、同上下水道局逸見浄水場配水池西入口▲、同上下水道局逸見浄水場暖速浄過調整室Ⅰ▲、同上下水道局逸見浄水場暖速浄過調整室Ⅱ▲、同上下水道局逸見浄水場暖速浄過調整室Ⅲ▲、同上下水道局逸見浄水場暖速浄過調整室Ⅳ▲、同横須賀重砲兵連隊営門◇、同逸見波止場衛門◇、同東京湾要塞猿島砲台●、同千代ヶ崎砲台●、同相模原市旧陸軍通信学校将校集会所△、同集会所庭園△、同旧陸軍電信第１連隊電信神社碑及び奠営訓辞碑△、同川崎市旧登戸研究所の遺構群◇、同川崎市陸軍軍用地境界標◇

中部(37件)

新潟県上越市旧師団長舎○、燕市旧中島浄水場配水塔▲、長岡市旧中島浄水場ポンプ室棟▲、同旧中島浄水場監視室棟▲、同旧中島浄水場予備発電機室棟▲、石川県金沢市旧陸軍第９師団司令部庁舎▲、同旧陸軍第九師団長官舎△、同旧金沢偕行社▲、同旧金沢陸軍兵器支廠第５号兵器庫●、同６号兵器庫●、同７号兵器庫●、同内灘町着弾観測所跡○、同射撃指揮所跡○、富山県南砺市立野原監的壕○、同南砺市旧大鋸屋小体育館（奉安殿）▲、同南砺市吉江地区招魂社(旧吉江小学校奉安殿)▲、福井県福井市旧鵜小学校奉安殿▲、同南越前町特務艦関東の遭難の碑○、山梨県甲府市旧歩兵第49連隊糧抹庫▲、同南アルプス市ロタコ跡３号掩体壕○、同甲州市指定歴史資料「わだつみ平和文庫　中村徳郎・克郎資料」(47点)◇、長野県松川町元大島防空監視哨跡○、同松川町陸軍戦闘機墜落の地○、同松本市旧松本歩兵第50連隊糧抹庫▲、愛知県犬山市明治村旧名古屋衛戍病院◎、同歩兵第６連隊兵舎▲、同名古屋市乃木倉庫▲、同豊橋市旧陸軍第15師団司令部庁舎▲、同豊橋市旧陸軍第15師団長官舎○、同豊川市砥鹿神社西参道神社被弾鳥居○、同豊川市豊川海軍工廠遺跡○、同半田市旧中島飛行機半田製作所衣糧倉庫▲、同尾張旭市旧旭兵器製造本社事務棟▲、同瀬戸市法雲寺陶製梵鐘○、同一宮市旧起第二尋常小学校奉安殿▲、静岡市禅叢寺本堂扁額△、静岡県浜松市凱旋紀念門▲

近畿（24件）

三重県鈴鹿市北伊勢陸軍飛行場掩体▲、同四日市市誓元寺奉安殿▲、同津市寒松院被災墓石○同明和町旧陸軍第７通信連隊128部隊防空壕○、同熊野市所山の英国人墓地○、京都市旧外務省東方文化研究所▲、同伏見区近鉄澱川橋梁▲、京都府城陽市車塚古墳･掩体●、同舞鶴市舞鶴旧鎮守府水道施設（７件を１構）●、舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫●、舞鶴海軍兵器廠予備艦兵器庫●、舞鶴海軍兵器廠弾丸庫並小銃庫●、舞鶴海軍兵器廠雑器庫並預兵器庫●、舞鶴海軍兵器廠第３水雷庫●、舞鶴海軍軍需品倉庫（電機庫）●、舞鶴海軍軍需品倉庫（第１水雷庫）●、舞鶴海軍軍需品倉庫（第２水雷庫）●、舞鶴市北吸隧道▲、同神崎赤煉瓦ホフマン窯▲、同舞鶴鎮守府乙号官舎▲、大阪市立美術館（旧高射砲第３師団司令部）▲、大阪市大阪城天守閣▲、兵庫県姫路市立美術館（旧第10師団兵器庫）▲、滋賀県米原市機関車避難壕（２基）○

中国（23件）

鳥取県境港市台場公園内慰霊塔○、島根県浜田市立第一中学校屋内運動場（旧歩兵第 21 連隊雨覆練兵場）▲、島根県立浜田高校第二体育館（旧歩兵第 21 連隊雨覆練兵場）▲、広島市原爆ドーム●、同広島陸軍糧抹支廠缶詰工場○、同日本銀行広島支店○、同旧広島地方気象台○、同広島城●、同旧広島高等学校講堂▲、広島県呉市旧呉鎮守府司令長官官舎（和館）●、同（洋館）●、同呉市海軍工廠時計○、同入船山記念館休憩所▲、同水道局宮原浄水場低区配水池▲、同水道局平原浄水場低区配水池▲、同水道局二河原水源地取入口▲、同本庄水源地堰堤水道施設●、同入船山記念館旧高島砲台火薬庫●、広島県世羅町旧大田尋常高等小学校奉安殿▲、同三原市旧大草尋常高等小学校奉安殿▲、岡山市岡山大学情報展示室（旧陸軍 17 師団司令部衛所）▲、同岡山県総合グランドクラブ（旧偕行社）▲、同瀬戸内市邑久（おく）光明園奉安殿▲

四国（14）

徳島県鳴門市板東俘虜収容所跡●、同板東俘虜収容所安芸家バラッケ▲、同板東俘虜収容所柿本家バラッケ▲、同ドイツ橋◎、ドイツ兵慰霊碑◎、同板東俘虜収容所関係資料◎、香川県善通寺市旧善通寺偕行社●、同旧陸軍第 11 師団兵舎棟▲、同多度津町 JR 多度津工場会食所 1 号▲、愛媛県伊方町旧正野谷桟橋（軍艦波止場）▲、同松山市掩体壕○、同大宝寺●、高知県南国市前浜掩体群（7 基）○、高知市織田歯科塀▲

九州(81 件)

大分県宇佐市城井 1 号掩体○、宇佐海軍航空隊落下傘整備所○、宇佐海軍航空隊半地下式コンクリート建物○、宇佐海軍航空隊関係爆弾池○、高居地下壕○、宇佐海軍航空隊関係連光寺生き残り門○、佐伯市旧佐伯海軍航空隊掩体壕▲、同丹賀砲台跡（豊予要塞）○、同仙崎砲台跡（豊予要塞）○、同西南戦役古戦場陸地峠○、同西南の役津島畑古戦場○、玖珠町豊後森林機関庫▲、同豊後森林機関庫転車台▲、福岡県志面町旧志面鉱業所竪坑櫓●、須恵町旧海軍燃料敞採炭部新原採炭本部跡○、行橋市稲童 1 号掩体壕○、長崎県長崎市大浦天主堂●、同山王神社の大クス○、長崎原爆遺跡旧山城国民学校校舎●、同浦上天主堂旧鐘楼●、同旧長崎医科大学門柱●、同山王神社二の鳥居●、同爆心地●、長崎県島原市からゆき塔女のドーム○、佐世保市旧佐世保鎮守府武庫預兵器庫▲、旧佐世保鎮守府凱旋記念館▲、佐世保重工業 250 トン起重機▲、旧佐世保無線通信所施設（針尾送信所）●、大村市第 21 海軍航空廠本部防空壕○、佐賀県佐賀市三重津海軍所●、熊本県あさぎり町神殿原秘匿飛行場掩体壕△、熊本県西南戦争遺跡●、熊本市明徳官軍墓地◎、同七本官軍墓地◎、同花崗山陸軍埋葬地○、同旧輜重兵 6 連隊衛兵所○、熊本県玉東町有栖川の宮監戦の地○、同篠原国幹戦傷の地○、同南関町城ノ原官軍墓地◎、同肥猪町官軍墓地○、同水俣市陣内官軍墓地◎、同和水町下岩官軍墓地◎、同菊池市花房飛行場給水塔○、鹿児島県薩摩川内市天狗鼻海軍望楼台○、姶良町山田の凱旋門▲、南九州市旧知覧飛行場給水塔○、旧陸軍知覧飛行場弾薬庫▲、旧陸軍知覧飛行場着陸訓練施設鎮碇▲、旧陸軍知覧飛行場防火水槽▲、鹿屋市海軍航空隊笠野原基地跡の川東掩体壕○、同海軍航空隊串良基地跡の地下壕電信壕電信司令室○、同志布志市権現島水際陣地跡○、同志布志市西馬場の岩川海軍航空隊基地通信壕跡○、志布志市平床の通信壕跡○、同大和村今里小中学校旧奉安殿▲、伊仙町鹿浦小学校奉安殿▲、瀬戸内町旧木慈小学校奉安殿▲、同須子茂小学校奉安殿▲、同薩川小学校奉安殿▲、同池地小中学校旧奉安殿▲、同節子小中学校旧奉安殿▲、同古仁屋小学校旧奉安殿▲、沖縄県伊江村公益質屋○、南風原町沖縄陸軍病院南風原壕○、中城村 161.8 高地陣地○、読谷村座喜味掩体壕○、読谷村座喜味忠魂碑○、同チビチリガマ○、うる

ま市新川・クボウグスク陣地壕群○、同平敷屋製糖工場跡○、宜野座村米軍野戦病院集団埋葬地収骨報告書○、本部町本部監視哨跡○、渡嘉敷村旧日本軍特攻艇秘匿壕○、渡嘉敷村集団自決跡地○、渡嘉敷村赤松隊本部壕○、宮古
島市ヌーザランミ海軍特攻艇格納秘匿壕○、石垣市名蔵白水の戦争遺跡群○、石垣市元海底電線陸揚室○、同登野城尋常高等小学校奉安殿○、沖縄市美里国民学校奉安殿○、同美里小学校忠魂碑○

⑵指定・登録文化財等の動向

新たに指定文化財・登録されたものが８件、過去に登録されていながら漏れていたものが３件あり計 10 件を追加した。今回は国史跡や県指定はなく、新たな８件の内訳は、市史跡となったものが３件（茨城県笠間市の筑波海軍航空隊司令部庁舎 2018 年 12 月、鹿児島県志布志市の西馬場の岩川海軍航空隊基地通信壕跡、同市平床の通信壕跡 19 年３月）、国登録文化財が２件（富山県南砺市吉江地区招魂社(旧吉江小学校奉安殿)2019 年３月、岡山県瀬戸内市邑久（おく）光明園奉安殿 2018 年 11 月）、この他山梨県甲州市では、学徒出陣で戦死された中村徳郎さんの手記「わだつみ平和文庫　中村徳郎・克郎資料」員数 47 点が「平和教育に資する文化芸術の源」であるとして甲州市指定歴史資料となった。文化庁は「戦時記録としての評価を前面に出して文化財として指定するのは、全国的に珍しい」と指摘（朝日山梨 19.5.3）。川崎市では 2017 年 12 月に川崎市地域文化財検証制度が新設されているが、第１回の川崎市地域文化財に記念物として旧登戸研究所の遺構群が、同有形文化財（歴史資料）として陸軍軍用地境界標が選ばれている。

地域別には九州の 81 件が最も多く次いで関東 63 件、北海道 42 件、中部 37 件などとなっている。都府県では沖縄、鹿児島、神奈川が 19 件と最も多く次いで東京 18 件、広島 17、熊本・長崎 13、愛知 11、千葉 10 件などとなっている。空白県が６県である。

6.保存運動の展開と課題

先ず、昨年全国シンポ開催地の豊川市の海軍工廠跡について報告しなければならない。「豊川海軍工廠跡地の保存をすすめる会」の 22 年の長きにわたる取り組みと行政の努力が実り、３ha という広い敷地を有する豊川海軍工廠平和公園が昨年６月にオープンし、高い評価を受けている。開園以来から３月末までに 51,242 名が訪れている。ところが全国ネットニュースにも掲載されたように「平和公園」東側と南側の工廠跡地 6.2ha が昨年秋に工業用地として転売された。ここには公園内と同様の施設跡が数多く残っており、重要な戦争遺跡であることから「すすめる会」と「全国ネット」は昨年 11 月 27 日、山脇実豊川市長に売却を中止するよう申し入れ「要望書」を提出したが残念ながら果たせなかった。西側にはさらに広い跡地が広がっており、現在名古屋大学が使用しているが、ここについては将来、一定の面積について公園化を検討しているとのことであった。

埼玉の桶川市の旧陸軍熊谷飛行学校桶川分教場建物の保存は、これまで全国シンポでも何度も取り上げられた。「旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会」によって 2008 年以来取組まれており、保存署名、会誌発行、DVD の製作、絵葉書、展示活動など実に多彩な活動がなされてきた。2016 年に残存建物５棟を市有形文化財指定、その後ものつくり大学による調査と解体、昨年度に中央の兵舎と便所の復元が完成、本年度に車庫と守衛所を復元する予定で来年夏にオープンする。

高知の歩兵第 44 連隊弾薬庫と講堂の保存も 2011 年から取組んできたところである。2017 年２月には管理者である財務局が競売を公示したことから保存運動を強化し保存署名や見学会、シンポなどを行い、一昨年の第 21 回全国シンポでは「保存を求める決議」が採択された。その後県議会

で取り上げられ、競売の凍結、昨年２月県文化財審議会で「保存に相当する価値」を有るとの答申が出され、本年の３月議会において敷地（5,500 ㎡）を高知県が購入するとの方向性が示された。現在県教委は「跡地活用を協議する検討委員会」を立ち上げている。

富山県南砺市では2015年に国登録文化財となった「旧大鋸屋（おがや）小学校体育館の中にありこれまで放置されてきた奉安殿を地域協議会が復元に取り組み完成し７月13日に住民に公開、報道によると昭和天皇と皇后の写真、教育勅語を納め菊の紋をケヤキ材と金箔で再現したとのこと、今後どのように使われていくのか注視していきたい。

7. 戦争遺跡の保存と活用について問題点と課題

戦後74年、戦後世代が戦争の実相、悲惨さを語り継いでいく時代が到来した。戦争の生き証人である戦争遺跡の重要性は益々高まっているが、戦争遺跡に何を語らせ伝えていくのかは私たち人間である。科学的な根拠と方法論に基づいた調査研究によって得た事実こそが、戦争遺跡に歴史の証言者としての価値を保証し高める。しかしながら近年、解説文などにおいて事実を隠蔽し戦争遺跡の価値を低下させるような行為が見られる。すでに別稿において触れたところであるが、沖縄の首里城・旧日本軍第三二軍の説明板の設置を進めて来た沖縄県が「第三二軍司令部壕説明板設置検討委員会」の合意文案（2011年）を無視して、「慰安婦」「住民虐殺」の文字を一方的に削除した説明板を設置した。沖縄戦がどういうものだったのか、沖縄戦の記憶に欠かすことのできない文言である。「松代大本営」の設置が予定されていた長野市松代の象山地下壕は、1990年の公開以来毎年十万人前後が見学に訪れている全国でも屈指の戦争遺跡であるが、ここでも説明板に書かれた「当時の住民と朝鮮人の人々が労働者として強制的に動員され」から「強制的に」の文字が隠された。歴史事実を隠蔽する行為であると批判が寄せられ韓国マスコミからの取材もあった。長年地下壕の保存に関わって来た「松代大本営の保存をすすめる会」も従前の記述の復活を求めたが、曖昧な表現に変えられている。

埼玉県の国史跡吉見百穴は、戦争末期に巨大な地下軍需工場が作られた戦争遺跡でもある。「零戦」などを製作した中島飛行機のエンジン製造が予定されていた。以前に出された説明書には地下工場建設に関わった「3000～3500人に及ぶ朝鮮人労働者」の記述があったが最新の説明書からは消えている。このような歴史の事実、負の側面を抹消しようとする行為は各地で生じおり、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」から徴用工や強制労働が隠蔽され、公立の平和博物館から日本の戦争の加害についての展示が行われなくなったこと共通した事象である。

一方で、自治体の中には特攻基地跡などに残る戦争遺跡を保存・整備しながら大規模な資料館構想を進める事例も見られる。大分県宇佐市は、「城井一号掩体壕」の保存・整備など戦争遺跡保存において先駆的な役割を果たして来たところであり、６件の戦争遺跡・遺構を史跡指定し整備を進め、ガイダンス施設も設けるなど全国で最も熱心な取り組みが行われている。しかしながら平和資料館には実物大の「零戦」や「桜花」が展示されており、将来建設予定の「ミュージアム」には１億円以上もかかる「艦上攻撃機」の実大模型も展示予定とのことである。兵庫県加西市では鶉野飛行場跡の整備が進行しており６月には「紫電改」の実大模型が展示公開され多くの見学者で賑わっている。軍事博物館的な傾向が強く感じられ戦争の実相や悲惨さは伝わってこない。ここでは戦争に対する抗議の声や特攻隊を送り出した指揮官たちの責任は特攻隊を美化することでかき消され、21世紀版の「戦争神話」が生み出されているように思われてならない。

館山市の「赤山地下壕」では2004年の一般公開以来見学者が30万人を超えたとのことである。戦争遺跡が平和学習の場であるとともに地域の活性化や観光に利用させることは歓迎すべきことであろう。行政が行う以上は集客効果も図られなければならない。しかしそこで歴史が死んでしまったらなんのための戦争遺跡保存か本末転倒である。戦争の負の側面、加害を隠蔽し、誇らしい側面を強調するこのような傾向は安倍政権下で顕著となり、今後さらに強くなるのではないかと懸念される。しかし戦争遺跡はどんな小さな遺跡であっても国内で完結するものは一つもない、全て国際性を帯びており加害、被害、抵抗の視点でトータルに捉えなければ歴史的位置付けはできない。

8. 戦争遺跡の保存・整備と自治体　－「負の遺産」を「地域の財産へ」－

戦争遺跡の保存整備に自治体が関わることが多くなれば、遺跡と住民をつなぐ存在として自治体職員の果たす役割も問われてこよう。日本国内に残っている戦争遺跡は約５万件、これらは日本が国策の柱として採用した富国強兵路線に沿って明治初期から形成され始め、戦争を繰り返す中でその数を増し、アジア・太平洋戦争で最大に達し、しかもその末期に集中しているところに特徴がある。特攻基地もその中に含まれる。この分布の偏りは何を意味しているのか。

アジア・太平洋戦争で日本は自国民310万人、アジア各地域で2,000万人の命を奪うという有史以来未曾有の惨劇をもたらして敗戦を迎えたが、日本国内が戦場となったのは最後の１年足らずである。日清戦争以来、半世紀にわたって繰り返されてきた戦争は、全て朝鮮半島や中国など東アジア各地の海外で戦われた侵略戦争であったことを分布図は如実に示している。本土空襲や沖縄戦、本土決戦陣地、特攻基地、防空壕、疎開工場などなど、国内が戦場となっていたことを示すものであるが、これらの戦争遺跡は最後の一年足らずで形成されたものが多い。

地域に残るこれらの戦争遺跡をどのように位置付けるのか。特攻基地跡を富国強兵という日本の近代化路線やその帰結としてのアジア・太平洋戦争と切り離して、単に戦争末期に生じた「国難」に立ち向かった基地跡として位置付けるだけでいいのか。特攻基地が登場した歴史的背景をまず示さなければならない。その上で誤った国策が、地域と住民をどんな状態に陥らせたのか、戦争遺跡は住民の命と暮らしを守る自治体職員としての役割を学ぶ場ともなるはずである。そしてどのような地域の未来像を描くのかということにも繋がる。

9. おわりに

戦争遺跡は私たちにとって最も身近に存在する遺跡であり歴史の扉でもある。戦争遺跡が形成された歴史的背景を繰り返し追求し、地域の戦争遺跡を東アジアの近代史の中に位置付け、東アジアの人々と共有できる歴史像を地域から構築することによって「負の遺産」を負のままではなく地域の確かな羅針盤として掛け替えのない財産へと昇華することができよう。

21世紀に入り欧米によるアジアやアフリカの植民地支配の責任を問い直す流れが世界で起こっている。冷戦後、被害を受けた側が声をあげ、西欧の市民社会が呼応する中での変化である。今日韓関係は戦後最悪の状態にあるが、今韓国に起こっていることはこのような流れの北東アジア版として位置つけることができるのではないか。戦争遺跡は和解の場としての役割も果たせることになろう。

最近の戦争遺跡関連論文、報告書、図書

池田榮史 2019『沖縄戦の発掘　沖縄陸軍病院南風原壕群』新泉社

安部和城 2019『小倉城御用屋敷跡』北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

瀬戸哲也　他 2019『神山古集落』沖縄県立埋蔵文化財センター

出原恵三 2019「高知市の戦争遺跡」『高知市史考古編　遺跡が語る高知市の歩み』高知市

空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2019『第 5 回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集』

工藤洋三「VT 信管付き 260 ポンド破砕爆弾と 6 月 8 日の鹿屋空襲

織田祐輔「1945 年 3 月 28 日～29 日の南九州に対する艦載機空襲について」

草場啓一「西鉄筑紫野駅銃撃事件の概要」

藤木雄二「利用か？解体か？岐路に立つ“戦争遺跡”大牟田市庁舎本館」

前園廣幸「下関要塞〈北九州市域〉の現状」

相戸　力「旧陸軍第２総軍第 16 方面軍司令部山家地下壕建設問題」

蜷父雅文「玉名飛行場・大型格納庫の基礎遺構調査」

小川泰樹「福岡県戦争遺跡調査」

高谷和生「建軍飛行場と有蓋木製覆屋掩体壕」

中嶋光秋「大牟田の空襲を記録する会・最近の主な会活動報告」

滋賀県平和祈念館・滋賀県立大学中井研究室 2018『滋賀県戦争遺跡分布調査報告書』

米子市文化財団 2018『金廻芦谷平遺跡･越敷山古墳群（金廻地区）』

宮古島市教育委員会 2018『宮古島市内戦争遺跡分布調査報告書（1）−城辺地区・上野地区−』

宮古島市教育委員会 2018「シンポジウム〈戦争遺跡の可能性−保存･整備･活用の視点から〉」『最新の研究成果に見る宮古の歴史』№. 2

宮古島市教育委員会 2018『千代田カギモリ原の古墓　千代田カギモリ原の壕』

空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会 2018『第４回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集』

工藤洋三「米軍資料に記載された出水空襲」

橋本邦和「戦争遺跡保存の取組み　出水市と出水市の戦争遺跡を考える会の取組み」

佐藤宏之「地域の戦争の〈記憶〉を未来につなぐ−平和を希求する心を育むために」

八巻聡「内之浦臨時要塞について」

織田裕輔「ガンカメラ映像に残る第 340 戦闘飛行隊について」

高谷和生「陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕の系譜」

池田拓「宗像市域の戦跡調査報告−大島・沖の島砲台跡を中心に−」

田所寛和「〈軍都・久留米〉の実像を探る Part2　フィールドワーク報告」

追立敏弘「〈八紘一宇〉の塔を警告碑に、平和ミュージアムをつくりたい」

山本達也 2018「三重の軍事遺跡(7)大紀町野添の本土決戦陣地」『軍装操典』132 号全日本軍装研究会

多田仁 2018「六番岩松監視哨の記録」『よど』第 19 号　西南四国歴史文化研究会

出原恵三 2018「〈陸軍埋葬地〉から〈陸軍墓地〉へ」『高知考古学研究』第 2 号高知考古学研究会

吉浜　忍 2017『沖縄の戦争遺跡』吉川弘文館